

しみず なんざん
清水 南山

1875（明治8）年～1948（昭和23）年

日本で名高い彫金家です。

豊田郡能地村（現在の三原市幸崎町能地）に生まれました。名前は亀蔵といいます。子どものころから絵を描くことが好きでした。

1891（明治24）年に東京美術学校（現在の東京芸術大学）の絵画科（日本画）へ入学しましたが、同じクラスの菱田春草の絵をみて、とても自分の力は及ばないと思い、途中から彫金科に編入しました。

1896（明治29）年、彫金科を卒業し、研究科に残り加納夏雄、海野勝珉に、そしてその後、塑像科に入学し、藤田文蔵に学びました。研究科終了後は独立して彫金に励みました。

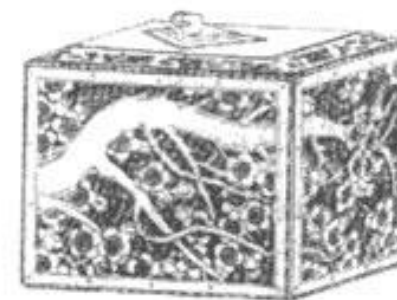
1909（明治42）年に、香川県立高松工芸学校に勤めましたが、6年後に病気のため退職しました。この機会に四国八十八か所の寺を巡礼し、その後、奈良に住んで法隆寺など古美術の研究にうちこみました。

ふたたび上京し、1919（大正8）年から1945（昭和20）年まで母校の東京美術学校の教授として、学生の指導にあたりました。この間、帝室技芸員、日本彫金会会長、帝国美術院会員として、彫金界に偉大な貢献をしました。

作品は、帝展などの展覧会に出品し、優秀な作品を多く残しています。その作風伝統の技法を大切にされた格調の高いもので、なかでも「梅花図鍍金印櫃」は、代表的な作品です。

南山は、日本画の大家である平山郁夫の祖母の兄にあたり、平山郁夫が少年時代に、画家になることをすすめた人でもあります。

※彫金 = 金属の鑿などで彫刻をすること。



彫金 梅花図鍍金印櫃
高さ 13.6cm
東京国立博物館所蔵